

「ホット・シーティング」で親方を読む

目標

●知識及び技能

事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (1)ウ

●思考力、判断力、表現力等

場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えることができる。 C(1)イ

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 C(1)オ

●学びに向かう力、人間性等

言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

評価規準

●知識・技能

【知技1】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して、語感を磨き語彙を豊かにしている。

●思考・判断・表現

【思判表1】 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。

【思判表2】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。

●主体的に学習に取り組む態度

【主1】 進んで人物や心情を描いた表現に注意して読み、学習課題に沿って、人物の心情を想像してまとめようとしている。

指導案の概要

中学校に入学して間もない生徒には主人公を中心に作品を読む傾向が見られるが、中学校で扱う作品では、「エーミール」（「少年の日の思い出」）、「ディオニス」（「走れメロス」）、「ルントー」（「故郷」）といった、主人公に影響を与える人物に着目して読み進めることが有効な作品も多い。この点を踏まえ、本指導案では、親方に焦点を当てて読み進める。親方が三吉を叱り、励まし、車大工の仕事の重要さや誇りを語る姿を捉えることで、三吉の心情や仕事への思いがどのように変化したのかを読み深める。登場人物になりきった生徒が、ほかの生徒からの質問にその人物の立場で答える「ホット・シーティング」を取り入れ、親方役の生徒にほかの生徒が質問する活動を行う。やりとりの後には、回答の根拠となる本文の描写を確かめ、想像だけに流れないようにする。この活動を通して、親方の仕事観や三吉への期待を具体的に捉え、最後には「親方のどのような思いや仕事観が、三吉の心をどう変えたのか」という問いについて、自分の考えをまとめ、広げることを目指す。

学習の流れ

時	学習活動	学習・指導の具体例	評価規準・評価方法
1	①学習の流れと目標を確認する。 ②祇園祭りや作品の時代背景について説明し、本文を通読する。 ③初読の感想や疑問を交流し、漢字・語句を確認する。 ④作品を四つの場面に分ける。	- 主人公だけでなく、主人公以外の登場人物にも着目して作品を読むことを確認する。 - 祇園祭りや時代背景について知る。 ※脚注の QR コンテンツを利用してもよい。 - 題名から内容を予想した後、本文を通読する。 - 通読しながら、「三吉の気持ちが変わるところ」「親方の人物像が表れているところ」「疑問に思ったところ」に印を付ける。 - 初読の感想や疑問を交流する。 「首をすくめる」「おろおろする」など、事象や行為、心情を表す語句を取り上げる。また、「広がる言葉」に取り組む。 「言葉の力」の内容を手がかりに、作品を四つの場面に分ける。	知技 1 (観察・ノート) - 語句の意味や用法について調べ、理解しているかを確認する。 思判表 1 (観察・ノート) 「時間」「場所」「登場人物」を手がかりに場面を分けているかを確認する。
2	①本時の目標を確認する。 ②親方の仕事への思いと、三吉への思いを読み取る。 ③親方の矛盾して見える言動について考える。 ④親方に尋ねる質問を作る。	- 前時に把握した作品全体の内容を受けて、本時は親方の人物像を考えることを確認する。 発問例 親方は、車大工の仕事と三吉のことを、それぞれどのように考えているのでしょうか。 - 親方の言葉や行動を本文から抜き出し、「仕事への思い」「三吉への思い」の二つの観点から整理する。 - 三吉を「半人前」と呼びながら矢を 1 本任せたと、「物騒やないか!」と言いながら「侍が怖くて車大工がつとまるか。」と言っていることについて、その思いを考える。 - 次時にホット・シーティングを行うことを知らせ、親方の言動の理由や思いを尋ねる質問を作る。	思判表 1 (観察・ノート) 親方の複数の言動を関連付け、仕事に対する考え方や三吉への思いを捉えているかを確認する。
3	①本時の目標とホット・シーティングの進め方を確認する。 ②親方を対象としたホット・シーティングを行う。 ③親方役の回答と本文との関係を検討する。 ④親方役の回答を分類し、ホット・シーティングのまとめをする。	- 前時に作った質問を用い、親方への質問と回答を通して人物像を深めることを確認する。 発問例 親方の言動の理由や思いを考えていきましょう。 - 教師が最初の一問に親方役として答え、モデルを示す。親方役は、3、4 人の「親方チーム」が担当し、交代で回答する。 ※回答に迷っているときは、チームで短時間相談させたり、適宜支援したりする。 - 親方役は、必要に応じて、役を離れて回答の根拠を示す。質問する側は、親方の回答を受けてさらに問い返してもよい。 ※親方に対する多角的な質問が出るよう支援する。 - 回答を①本文に明確に書かれていること、②本文の描写から推測できること、③本文からは決められないことに分類する。	思判表 1 (観察・ノート) - ホット・シーティングでの質問と回答をもとに、親方の人物像について考えを深めているかを確認する。 主 1 (発言・ノート) - 進んで親方への質問を考え、他者の質問や回答を踏まえて、人物理解や作品理解を見直そうとしているかを確認する。

4 ① 本時の目標を確認する。 ② 親方が、三吉の心情や仕事への思いをどう変えたのかを考える。 ③ 学習を振り返りながら、題名「さんちき」の意味について考える。	● 前時に捉えた親方の人物像を踏まえて、親方が三吉にどのような影響を与えたのかについて考えることを確認する。 ● 初めと終わりの三吉を比較する。「さんちきは、きっと腕のええ車大工になるで。」とつぶやいたときの三吉の思いを考える。 発問例 親方のどのような思いや仕事観が、三吉の心をどう変えたのか、まとめてみましょう。 ● ホット・シーティングの内容も踏まえてノートにまとめ、発表し合い、考えを広げる。 ● 「さんちき」が、当初の「失敗の跡」から、「百年後まで残る車を作った職人の名」や「三吉の将来への決意」を表すものへと意味を変えたことを捉える。	思判表 1 (観察・ノート) ● 三吉の心情や仕事への思いの変化を捉えているかを確認する。 思判表 2 (発表・ノート) ● 親方が三吉に与えた影響について考えをまとめ、他者の意見を参考に考えを広げているかを確認する。
--	---	---